

事業計画目標	外国人職員の育成
内 容	<p>○ミャンマー人の「特定技能実習生」を今年度4名受け入れを行い、外国人の介護人材が充実することで、日本人職員が働きながら異文化交流を経験することによる国際的視野の享受や技術供与によるスキルアップを図ります</p> <p>○特定技能実習生の受け入れは、初めてのため技能実習計画に基づいた業務指導が出来るよう職員の育成をしていく。</p>
報 告	<p>9月から遅番、早番の変則業務が始まりました。 納涼祭にてミャンマーの踊りを披露して文化に触れることができました。</p> <p>言葉が伝わりにくい中で、写真や動画のマニュアルを増やし工夫しながら指導することで再度指導方法の見直しをして技術指導に活かすことができました。 写真や動画のマニュアルを活用し指導できる職員が増えました。</p>



**異文化交流**  
ミャンマーの踊り披露



**指導職員の育成**

事業計画目標	サービスの質の向上
内 容	<p>○ご利用者に要望を伺い、また要望を言えない方の気持ちをくんだイベントを考え、年3回以上開催する。</p> <p>○介護技術向上のための講習会を開催する。 （特定技能実習生とともに改めて介護の基礎を学び、食事支援や入浴介助、口腔衛生などにも力をいれる）</p>
報 告	<p>希望の多かった、鰻、かつ丼、エビフライなどを出前にて取り楽しんで頂き、アイスを楽しんで頂くスイーツ会も開催しました。</p> <p>介護技術の基礎を学び直し実際に排泄や入浴介助のマニュアルの見直しもして職員にてモデルになり実践指導を行いました。</p>



食事のイベント風景  
デザートアイス



介護技術研修風景  
排泄介助・入浴介助



事業計画目標	I C T機器の導入
内 容	<p>○見守り機器（離床センサー等）のI C T機器を導入し、介護事故の予防や業務効率を向上させスタッフの負担軽減に繋げる。</p> <p>○ナースコールシステム更新に向け補助金等精査していく。</p>
報 告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉機器展にて複数の業者と相談し、I C T機器のデモンストレーションを行い、業務への活用を検討した。</li> <li>・まずはW i - F i 設備など通信環境の構築が優先と考える。</li> <li>・ナースコールについては継続対応中。</li> </ul>



I C T機器のデモ導入（インカム）  
現状ナースコール

事業計画目標	余暇活動の充実
内 容	<p>○外出行事(買い物ツアーなど)を定期開催し、利用者の外出する機会を増やし生活の質を向上させる。</p> <p>○社会福祉協議会実施の「彩の国ボランティア体験プログラム2024 in 行田」へ登録し、学生や地域ボランティアの積極的な受け入れをする。</p>
報 告	<p>社会福祉協議会からのボランティアの受け入れは少なかったが、独自にボランティア団体を開拓し、コンサートの実施や音楽療法士の団体の受け入れを行った。今後はサンバやアニマルセラピーの受け入れ予定している。</p>



コンサート・ボランティアの訪問



事業計画目標	別館建物中規模修繕
内 容	<p>○利用者居室エアコンを個別化し、各ホール等も省エネエアコン導入し空調更新を行う。（国土交通省の既存建築物省エネ化推進事業補助金を活用）</p> <p>○省エネ率と断熱効果を上げるため断熱補修工事を実施</p> <p>○外壁剥離が懸念されるための補修工事を行う</p>
報 告	<p>国交省補助金の採択があり、全館のエアコンを最新設備に更新し、利用者の居室は個別エアコン化を実施した。</p> <p>今年中で工事完了となる。</p> <p>また、別館外壁についても修繕を実施し完了している。</p>



居室個別エアコン



外壁補修



共有部エアコン



打診検査

事業計画目標	軽費老人ホームの新たな役割計画の付帯計画 地域のコミュニティーセンター作り
内容	地域交流や災害拠点として、地域のコミュニティーセンターを有する施設になる為に計画します。
報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域コミュニティーづくり 文化祭や、地域の防災活動に参加し、地域の方々との交流を図り、コミュニティカフェの開始に向けたパンフレット作成を行いました。また、カフェの準備として、開催時のイベントを検討したり、ホームのラウンジのリノベーションの準備も行っており、訪れる方や、ご利用者様が居心地の良い空間になるような場所を作っていきたいと思えます。</li> <li>● 災害拠点づくり 現在、地下水を利用した地域の給水ポイントになるべく、給水工事を行うための補助金を申請を行い採択されました。現在、年度内に工事が終わるかの検討を行っています。</li> </ul>



コミュニティカフェパンフレット



グリーンホームのラウンジルーム



リノベーションのイメージ図

事業計画目標	大規模修繕計画及び災害計画の立案と実施
内 容	令和4年度に引き続き、建物の老朽化に対する大規模修繕を進めていく。また、地域のコミュニティーセンターや災害対策を目指す事から、修繕を行っていくにあたり、災害対策及びコミュニティーセンターとして一部内観のリニューアルによる美化を含めたものとしてく。
報 告	<ul style="list-style-type: none"><li>● 給水関連について 補助金が採択され、補助金の条件である本年度内に収まるか、業者と検討中です。</li></ul>

事業計画目標	独居高齢者への支援と利用待機者確保
内 容	独居高齢者の住まいの確保や要介護状態の利用希望割合が多くなってきており、また、介護を提供できる中間施設が少ないことにより転居もスムーズに出来ない為、以前に比べると要介護者への対応が求められるようになってきました。そこで、営業先の一つとして不動産業者へも広げサービスの周知を図り、比較のお元気な利用者の確保と同時に、更新が困難な方の救済にも繋げていきたいと思えます。
報 告	<ul style="list-style-type: none"><li>● 不動産業者への周知活動 コロナにより不動産業者への訪問は中止していましたが、今後再開予定です。</li><li>● 生活保護受給者への救済制度の確立 自立しているが故に介護施設への入居が出来ない、制度の狭間にいる生活保護の方の住まいの確保として、生活保護受給者救済制度（利用料の割引）体制を作り、その受け入れを開始しています。現在、数名のご相談を頂いており、半年程度経っていますが制度上の問題はなく運用できています。 引き続き、社会福祉法人の公益活動と共に、安定的な入居率の確保を目指していきます。</li></ul>



事業計画目標	職員の業務効率の向上を図り、ご利用者様の自立支援・重度化防止につなげる。
中間報告	<p>○オムツプロジェクトを立ち上げ、排泄使用物品を見直し、オムツ交換の回数を削減した。ご利用者様にとっては、夜間の安眠に繋がり、職員にとっては業務負担の軽減となった。</p> <p>○レクリエーションにオンライン動画を活用した。リハビリの動画などはご利用者様に好評で、活動性の向上に繋がった。</p> <p>○デイケアの送迎方法を見直し、リハビリのみの利用希望の方の受け入れができた。</p>



## オンラインを使用したレクリエーションの様子

事業計画目標	業務のデジタル化の推進（ICTの活用）
中間報告	<p>○ICTプロジェクトの会議を定期的で開催し、施設内のICTの新たな活用について模索している。介護記録の内容の充実だけでなく医療情報の内容の充実が図れ、受診の際もタブレットやPCを活用できるようになった。</p> <p>○介護ソフトを活用し、法人内の事業所と情報連携を図れるようになった。</p>



事業計画目標	外出イベントの実施
中間報告	<p>○入所ご利用者様には季節を感じられる桜やバラの見学を。デイケアのご利用者様には機能向上訓練として、古代蓮見学や買い物ツアー等の外出イベントを実施し、大変喜ばれた。</p>

桜・バラ園見学



古代蓮・お買い物ツアー





事業計画目標	より良い認知症介護の実践とスタッフの学び
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の特性や認知症状、加齢に伴う身体状況変化などに対する介護に取組み、ご利用者の精神面の安定と安全な生活環境を提供していきます。</li> <li>・認知症介護についてスタッフ間でのミーティングや会議等で振り返りを行い、その人らしい生活を支援していきます。</li> </ul> 専門研修の参加しやすい環境を整えて個々の学びでのスキルアップを図ることで専門職としての成長に繋げていきます。
中間報告	レクリエーションや生活リハビリ、おやつレクなどを通して「楽しかった・美味しかった」を感じていただける活動を行っています。認知症の方は新しいことを受け入れることが不安になります。毎日の食事や入浴、トイレなどの日常生活動作が安心して行えるよう職員の声かけや関わり方、介護技術においてもやさしい介護、支援を行っています。今年度も認知症介護実践者研修を希望する職員がおりますので受講に向けてサポートしていきます。



食事姿勢を考える  
シーティングの訪問指導

15周年記念・古代蓮見学



事業計画目標	地域とのコミュニティづくりの実践
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた施設を目的とし、利用者と一緒にレクリエーションなどを楽しむ参加型の定期的な「百花カフェ」を開催することで、地域の方や家族、利用者との交流の場としての位置づけになるように自治会や地域包括支援センターなどへの働きかけや広報活動を行います。</li> <li>・地域のボランティア活動の受け入れを再開し利用者との関わりや施設を知っていただく機会として取り組んでいきます。</li> </ul>
中間報告	<p>行田市の委託業務を受けオレンジカフェを開催する運びになりました。認知症の方やその介護者や家族、地域住民、ボランティアや専門職の方々等どなたでも参加できる集いの場所としての活動をしていきます。地域の方から一緒に活動したいとお話もいただきカフェの内容が充実できるよう相談していきます。また運営推進会議では地域の方の活動にも触れ情報を共有しています。これからも百花を身近に感じていただけるよう連携を図っていきます。</p>



運営推進会議の様子

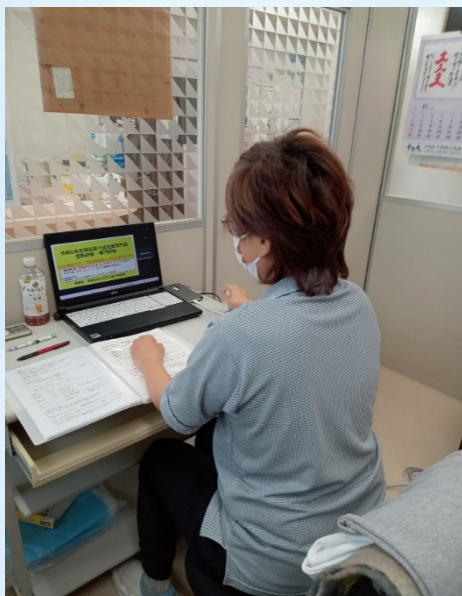


朗読の会の訪問

事業計画目標	1か月245名のケアマネジメント
中間報告	包括支援センターまきば園から引き継いだ、要支援、事業対象者の方、介護保険更新にて要介護から要支援認定者と軽介護度の担当件数を増やすことができ、月平均258名のケアマネジメントの支援を行っている。病院と連携を取り、要介護認定のケアマネジメントを積極的に受け入れていく。
事業計画目標	介護支援専門員のスキルアップ
中間報告	主任介護支援専門員1名、介護支援専門員2名の更新研修を修了し、特定事業所加算Ⅱ算定維持に努めている。各介護支援専門員が研修報告を行い、情報共有し、お互いの知識を高めている。

特定事業所加算Ⅱの要件

主任介護支援専門員の配置やその配置人数、研修の実施  
 伝達会議の定期的な開催や24時間連絡体制、困難事例の受入  
 地域包支援センター等が行う事例検討会の参加、実習生の受入など  
 13要件を満たすことが求められる。



介護支援専門員更新  
ZOOM研修



うららか祭りでの相  
談コーナー



事業計画目標	機能強化地域包括支援センターとして総合相談を円滑に行う
報告	<p>令和6年4月1日～9月までの期間、荒木・星河・南河原地区の総合相談、権利擁護・ケアプラン作成等を実施。また地区の公民館で実施した支え合いミーティング（計7自治会）に参加。出前講座を積極的に実施し民生委員や自治会の方々、地域住民の交流の場やコミュニケーションの場づくりを行った。トラブルなく対応することができた。10月1日より包括支援センター緑風苑第二として受託を受け、引継ぎをしながら事業を進めている。</p>



星河地区での支え合いミーティングの様子



出前講座 南河原荘で介護予防事業実施  
口腔体操の様子

事業計画目標	業務の効率化を図り実人数を100名に増やす
内容	<p>○行田中心部に移転し移動時間が短縮できるようになったので、更なる効率化を図り実人数を増やす。</p> <p>○空き状況を月の半ばにもファックスし営業活動するとともに、各利用者の報告時に必要回数や提供内容の見直しを相談しつつ実績数も増やしていく。</p>
報告	<p>4月は85名でしたが9月、10月には90名を超え少しずつだが増やす事が出来た。</p> <p>実績数も月に100回程増加している。</p> <p>今後もケアマネージャーと連携し新規獲得と提供内容の見直しを行いながら、少しずつ着実に成長していきたいと思えます。</p>
事業計画目標	サービスの統一化と各利用者のモニタリング
内容	<p>○管理者とサービス提供責任者が毎月5名以上を目標に利用者のモニタリングを行う。</p> <p>○モニタリングの結果を月1回の職員会議やグループラインでフィードバックし、連絡事項や利用者の提供内容の変更等の情報を共有し周知する。</p>
報告	<p>サービス提供における情報共有と質の向上への取り組みとして、モニタリングに加え管理者・サービス提供責任者によるg現場訪問や情報収集、そしてグループラインを活用し随時情報共有を徹底し、サービス内容の統一化を図っています。</p>

### モニタリングの様子



### サービス中の様子





事業計画目標	サービス内容の理解を深める取り組みを行う
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>○緊急通報の新システムを導入した為、その内容をアピールする為のチラシを作成し新規利用者を獲得する。</li><li>○現在サービスを利用しているケアマネージャーと連絡を取り、不明点などを継続して説明する。</li></ul>
報告	緊急通報の新システムをアピールするために作成したチラシを毎月ケアマネージャーへの報告時に各事業所へ配布しています。その成果もあり以前より相談が増えてきた為、引き続き新規利用者獲得に向けてアピールと説明を継続して行います。

## 新規でご利用の方への説明



事業計画目標	訪問入浴における介護、医療連携をする
内 容	<p>○がん末期や退院時における在宅療養が必要とされる方々に対して関係機関と連携して継続的なサポートを受けられるようにする。</p> <p>○日頃より行田市在宅医療・介護連携推進協議会の作業部会等に参加して顔の見える関係をつくり信頼関係をつくる。</p> <p>○MCS（医療介護専用コミュニケーションツール）を活用した在宅医療介護連携における効率化を図る。</p>
報 告	<p>訪問入浴サービスにおいて、がん末期や退院時の在宅療養に対する支援をスムーズに行うために、関係機関と連携しながら体制を整えてきました。さらに、その後のフォローアップに関しても、MCS（医療介護専用コミュニケーションツール）を活用した連携体制を導入し、医療と介護の連携を強化することで、一貫した支援を提供してきました。</p>

事業計画目標	一月延べ利用者数150以上にする
内 容	<p>○各事業所や関係各所に空き状況のチラシ、パンフレット等を用いて営業活動する。</p> <p>○キャンセルの利用者様に対して関係事業所と連携を取り振替の対応を行うことにより継続した利用者数を維持する。</p>
報 告	<p>各事業所や関係各所に空き状況を伝えるチラシやFAXを用いた営業活動を積極的に展開しました。また、キャンセルが発生した利用者様に対しては、関係事業所と連携を取り、振替対応を行うことで、継続した利用者数の維持に努めました。これらの取り組みにより、実績は着実に向上し、月平均で160前後の利用者数を達成することができました。</p>

事業計画目標	人材育成と定着率90%維持
内 容	<p>○事業所内における役割を明確にする。</p> <p>○年間で一人一人が研修計画を立て実施することで職員のスキルアップと意識向上を図りサービスの向上を目指</p> <p>○常に事業所内で上がった課題点や問題点については都度面談を行い客観的に、さまざまな角度から解決策を検討して解決することでサービスの向上を目指</p>
報 告	<p>事業所内での役割を明確化しました。さらに、職員一人ひとりに対して年間の研修計画を策定し、その実施を通じてスキルアップと意識の向上を図りました。これらの取り組みにより、サービスの向上を目指しています。また、事業所内で発生した課題や問題点については、随時面談を行い、多角的な視点から客観的に解決策を検討して実行しました。このような継続的な努力の結果、スタッフのモチベーションとサービス品質が向上し、現在までに誰一人辞めることなく、組織全体の安定を確保しています。</p>





訪問入浴介助風景



介護体験研修風景

事業計画目標	新たな客層を獲得するための施策
中間報告	<p>新たな顧客層の獲得については、買い物支援として、火曜日には“ウエルシア” 土曜日には“とくし丸”の移動販売車が来苑し、10名程の利用者が買い物をされ、在宅生活を支えるためのサービスとして活用されている。また、日頃買い物ができない利用者にとっては、購買意欲を高め、社会活動の一環として楽しまれ、火曜日と土日に利用を希望される方もいます。</p> <p>週3回（月・水・金）の余暇活動として、折り紙クラブを実施して10名程の利用者が楽しんでいます。クラブ活動の充実を図りケアマネジャーにアピールし新規の獲得に繋げていきます。</p>

事業計画目標	業務効率化を図る
中間報告	<p>レクリエーションについては、ジョイサウンドカラオケシステムを活用することで、担当職員を1名にすることができて、入浴などの介助に人員を充てることのできた。</p> <p>脳トレーニングやクイズ、音楽にあわせた体操、懐かしい昭和ニュース映像などを上映することで、レクリエーションの内容を増やすことができ、サービスの向上もできた。</p>





## 買い物

緑風苑入り口にて  
移動販売車で買い物



## クラブ活動

週3回折り紙クラブを  
開催



レクリエーション活動  
ジョイサウンドシステムを  
活用した体操



## 敬老会

ハーモニカクラブ様の  
訪問



事業計画目標	地域共生社会の実現に向けての取り組み
内 容	<p>○地域共生社会の実現を目指すために「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する新たな事業を計画し、令和6年度において、「参加支援」を目的として、特別支援学校に在学中の障害児童の就業体験実習を定期的を開催する。</p> <p>○オレンジカフェを開催し、地域における集いの場所として人と人、人と社会がつながり支え合う環境を作ることで新たな地域の課題点や問題点を見つけ、法人内や地域包括支援センターと共同して支援をする。</p>
報 告	<p>今年度、行田特別支援学校の生徒を受け入れ、毎週水曜日に冬と夏のシーズンに就業体験を定期的実施したことで、生徒たちは実際の業務を通じて社会参加の意義を学び、地域社会との結びつきが強化されました。また、オレンジカフェでは営業をしていない日曜日を活用して合計3回開催して、地域住民との交流の場を提供しました。参加者同士の支え合いの精神が育まれ、「うららか」のことも知っていただき、2名の利用にもつながった。これら取り組みを通じて、地域共生社会の実現に向けて確かな一歩を踏み出すことができました。</p>



就業体験実習



オレンジカフェ



事業計画目標	うららか祭りの再開
内 容	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止してきたうららか祭りを、安全を確保し、安心して来所していただける環境を整え再開する。</p> <p>○ご家族様、地域住民の方々、日々お世話になっている関係者（ケアマネジャーなど）の方にお越し頂き、うららかをより知って頂くような内容とする。</p>
報 告	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止してきた「うららか祭り」を、令和6年10月20日に無事に事故やトラブルなく再開することができました。ご来場者は合計185名迎えることができました。これは、スタッフ一丸となって準備を進め、安全対策を徹底した成果であり、地域の皆さま、関係者の信頼を再確認する機会となりました。また、新たな試みとして、QRコードを活用したクチコミアンケートを導入しました。Googleでの高評価を獲得することで今後の集客活動に繋げる目的がありました。成果として現在「うららか」のGoogleクチコミ評価は5段階評価で4.7点に達しています。この高評価は来場者の満足度を反映したものであり、地域の皆様や関係者の信頼を得るための強力な証となっています。今後、これを基にさらに集客力を高め、地域社会における「うららか」の認知度向上に貢献していきます。</p>



うららか祭り 写真